

令和5年度第1回天童市総合教育会議議事録

総務部総務課

1 日時 令和5年10月24日（火） 午前10時から午前11時16分まで

2 場所 本庁舎「3階会議室」

3 出席者

(1) 出席構成員

天童市長	山本信治	教育長	相澤一彦
教育委員	村山晴香	教育委員	松村昌子
教育委員	大内あゆ子	教育委員	工藤昭広

(2) 説明のため出席した者の職氏名

教育次長	秋保泰志	学校給食センター所長	大沼敦
学校教育課長	鎌田さとみ	生涯学習課長	押野一貴
教育総務課課長補佐兼庶務係長	蜂谷幸太		

(3) 事務局職員の職氏名

総務部長	松浦和人	総務課長	吉田聖志
総務課課長補佐兼行政係長	丸子正彦		
総務課主任	佐藤穂乃佳		

4 議事録署名員 教育長 相澤一彦

5 次第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 協議・調整事項

ア 天童市教育大綱に基づく施策の年度上半期の総括について

イ 教育委員会として今後重点的に講ずべき施策について

(ア) 不登校の対策について

(イ) 学校施設の暑さ対策について

(4) 閉会

6 会議の内容

発言者	発言内容
丸子課長補佐 (司会)	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>(1) 山本市長</p> <p>(2) 相澤教育長</p>
山本市長	<p>3 協議・調整事項</p> <p>それでは議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>まず、天童市総合教育会議運営要綱第4条第2項の規定により、議事録署名員を指名させていただきます。</p> <p>相澤教育長にお願いしたいと思います。</p>
相澤教育長	<p>はい。</p> <p>(1) 天童市教育大綱に基づく施策の年度上半期の総括について</p>
山本市長	<p>最初に、「天童市教育大綱に基づく施策の年度上半期の総括について」説明を求めます。</p>
秋保教育次長ほか	<p>(資料に基づき説明)</p>
山本市長	<p>ただ今説明がありましたが、皆様から御意見、御質問がありましたらお願いします。</p>
村山委員	<p>パワーアップイングリッシュクラスの実施について、子供が参加したが、他校とのつながりがあり、とても楽しかったようだ。真夏や真冬なので、自転車で行かなければならず、参加できない子もいた。各地域に素晴らしい公民館があるので、各地区の公民館で開催して公民館を見てもらうというのもよいのではないか。</p> <p>それでも参加できない子供もいるかもしれないので、日常</p>

<p>鎌田学校教育課長</p>	<p>的に英語に触れられるよう、放課後に各学校で英語のワークショップを開催し、長期休暇でそのまとめとして開催するなどするとより英語力が付くのではないか。</p> <p>今年初の事業。4つの中学校が集まったの交流の機会ではあるが、一つの会場に集まる必要がある。ALTを派遣して、より多くの子どもたちが英語に触れる機会を作っていく必要があると考えている。</p>
<p>大内委員</p>	<p>物価が高騰しており、献立も大変な中、値上げをせず給食費の支援をしていただきながらおいしい給食を提供していただいていることに感謝。</p>
<p>松村委員</p>	<p>学校に行けない原因がいじめなのか、コロナの後遺症なのか分からない、グレーゾーンの子供が多い。そうした子供たちを先生方がどんなときでも受け入れて対応していただいていることに感謝する。先生方がよく目を配っていることが分かる。</p>
<p>工藤委員</p>	<p>働き方改革について。月に時間外勤務が80時間を超える教員がいるようだ。朝早く来て仕事をしているとか夜遅くまで残っているという事例はないか。</p>
<p>鎌田学校教育課長</p>	<p>今のところ朝早く、夜遅く、という話は聞かない。時間外勤務は、土日の中学校の部活動が大部分を占めている。平日はなかなか仕事が進まないため、土日に来て仕事をする職員がいるという話は聞いている。</p>
<p>山本市長</p>	<p>他にございますか。</p> <p>(特になし)</p> <p>(2) 教育委員会として今後重点的に講ずべき施策について</p>

山本市長	次に、「教育委員会として今後重点的に講ずべき施策について」のア「不登校の対策について」と、イ「学校施設の暑さ対策について」説明を求めます。
秋保教育次長、 鎌田学校教育課長	(資料に基づき説明)
山本市長	ただ今説明がありましたが、まず、ア「不登校の対策について」皆様から御意見、御質問がありましたらお願いします。
大内委員	平日に学校を休んで旅行に行ったという話を聞いたことがある。昔とは価値観が変化していると思うが、あくまでも義務教育。不登校に対してハードルが下がらないように、家庭の話ではあるが、親にも意識付けしてほしい。
山本市長	小中合わせて不登校の件数が多い。対策を今やらないと長引いてしまう。本気の対策が必要。要因は？
鎌田学校教育課長	親も子供もコロナを機に休むことへの抵抗がなくなっている。休むうちに無気力、不安になり、友達とも離れてしまうと、行かなくなることもある。
相澤教育長	小学校で不登校を防ぐことで、中学校でも不登校になりにくいのではないかと。また、学校の枠を超えて特別教室を置くのはどうかと考える。
山本市長	どこかで対策を取らないと続いてしまう。大人としての責任がある。愛知県の岡崎市の好事例などもある。全国の事例を参考にして。早急の課題だと思う。
松村委員	<p>子どもが相談できる環境、家族に打ち明けられる環境が必要。学校に行けないことによる勉強に対しての不安もあるようだ。子供に達成感を与えることが必要か。</p> <p>いつ行っても、遅れて行っても、不登校でしばらく行っていなくても、仲間が待っている特別教室というのは良いと思う。繋がって、助けあう社会が大切。</p>

工藤委員	<p>不登校児の親も大変。周囲からの圧力、噂、地域目、祖父母世代からの非難などがある。親の相談を聞いてもらう場所があればよい。</p> <p>子供の自己決定が一番である。学校に来ることが絶対ではないと思っている。子供の将来を見据えて、アドバイスをし、あげられたらいい。</p>
村山委員	<p>学校に行かない選択は勇気がある。行きたくないけど行っている子もいる。一人ひとり原因は違う。もしかしたら勉強が出来すぎて行かない子もいるかもしれない。人間関係をもっとフラットにできるように、居場所づくりとして行きたい中学を選択できるというのもいいと思う。</p>
山本市長	<p>子供も親も悩んでいることは間違いない。改善していくのが我々の役割。教育委員会の皆様には中心となって検討し、対策をお願いしたい。</p> <p>次に、伊「学校の暑さ対策について」皆様から御意見、御質問がありましたらお願いします。</p>
工藤委員	<p>ここまで暑さ対策をしてもらってありがたい。一中はポロシャツ登校が可能になったと聞いた。通気性も良く、洗濯もしやすい。子供たちと学校とで話し合っ、て変えていくというのは、とても良いことではないか。夏の涼しさにつながることであり、他の学校でも大いに進めても良いのではと思った。</p>
村山委員	<p>夏のジャージ登校が可能になったり、制服が洗えるようになったりしてありがたい。指定の制服は長ズボンだが、ひざ丈のものも選べたらよいとの子供の意見。</p> <p>学校では夏に講演会が開催されることもある。真夏の体育館は暑い。季節をずらしていただけるとありがたい。</p>
松村委員	<p>登下校について。下校時が一番暑い。服装もだが、帽子を活用できないか。頭の日差しをよけるのも効果が大きい。</p>

山本市長	(3) その他 何かございますか。
相澤教育長	不登校について。進路が大切だと考えている。不登校の子供たちにこそ将来を考えさせる指導が必要である。学区は、いじめなら他校を選ぶことができるが、いじめ以外で学校に行きづらい場合の特例というのもありだと考えている。 暑さ対策について。服装を変えるのは、子供の声を尊重しながらというのが大事。家庭の負担も出てくるので、その均衡を取りながら進めていきたい。
山本市長	他にございますか。 (特になし) 4 閉会